

平和モニュメント「原爆救援列車（長与駅）」

長与町では、平和への祈念と被爆体験の継承を目的として、原爆投下直後に長与駅を出発した「原爆救援列車」の説明板とC57形蒸気機関車の車輪を、平成29年8月9日に長与駅東口へ設置しました。

○平和モニュメント（原爆救援列車）

【長与駅東口】

このモニュメントは、長崎市中央公園に設置されていたC57形蒸気機関車の車輪部分を、長崎市より寄贈を受け、移設したものです。

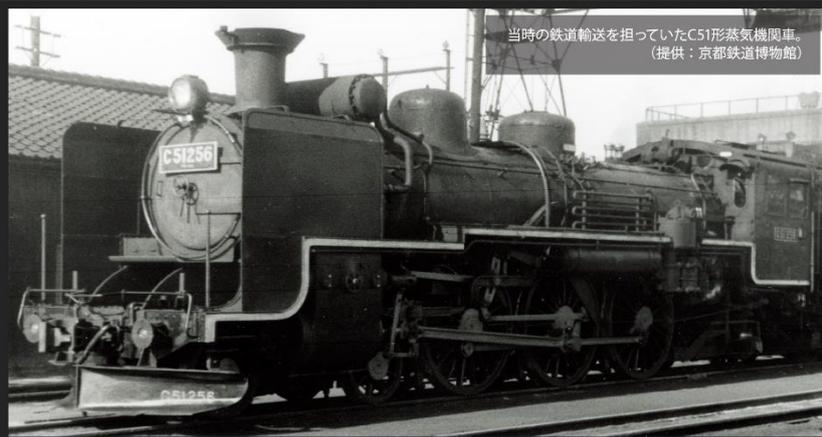
原爆投下直後、負傷者の運搬に活躍した救援列車の活躍を後世に伝えるとともに、原子爆弾で亡くなられた方々を追悼し、二度と核兵器による惨禍が繰り返されないことを願って、このモニュメントを設置しました。



○「原爆救援列車（長与駅）」説明板

【長与駅東口】

げんばくきゅうえんれっしゃ 原爆救援列車（長与駅）



1945年（昭和20年）8月9日午前11時2分、アメリカのB29爆撃機から投下された原子爆弾が松山町上空で炸裂し、すさまじい熱線と爆風、放射線が地上を襲い、多くの生命が奪われ、多数の負傷者が線路沿いに続々と避難してきました。

長与町（当時、長与村）においても、爆風や熱線の影響で家屋などの建物が損壊・焼失し、多くの人々がガラスの破片などで外傷を負いました。

長与駅では、ホームに停車していた下り列車と上り列車の窓ガラスが爆風の影響で破損し、ガラスの破片で乗客が負傷しました。

この下り列車は午前11時10分に長与駅に到着する予定でしたが、空襲警報により15分ほど遅れて長与駅に到着していました。

当時、長与駅の近くに運輸省門可鉄道管理局長崎管理部が疎開してきており、原爆投下直後から同管理部において

救援列車の運転計画を立てられ、道ノ尾駅を基点として、原子野と化した長崎への救援列車が運行されました。長与駅で被災した下り列車が、8月9日の正午過ぎに長与駅を出発して、最初の救援列車として被災者の救援にあたりました。

救援列車は爆心地から1.4kmほど離れた、道ノ尾駅と浦上駅の中間にある照園寺（しょうえんじ）付近でこれ以上進むことが難しくなり、そこで負傷者を取寄せ、疎早へ向かいました。

同じく、長与駅で被災した上り列車が9日最終の救援列車として運行するなど、8月9日に4本の救援列車が奔走し、およそ3,500人の負傷者が疎早、大村、川棚の各海軍病院などへ運ばれました。

長与町は原子爆弾で亡くなられた方々を追悼するとともに、二度とこのような惨禍が繰り返されないことを願って、この銘板を設置します。

旧長与駅



救援列車の始発駅となった長与駅
(昭和43年撮影)

「響け汽笛よ」



寺井邦人 作（提供：長崎原爆資料館）

原爆救援列車の活躍ぶりを描いた絵画。作者は、長崎機関区に所属する機関士だった。救援列車3号を運転して、爆心地近くの西町踏切まで乗り入れたときの状況を絵にしている。数千人の負傷者を乗せて疎早、大村駅まで運んだ。